

「タイ・フィールド調査参加報告書」

京都大学経済学研究科 修士課程2年
李 維琛

2週間のタイ・フィールド調査に参加し、さまざまなことを学び自分を成長させることができました。

第一は「気づき」です。つまり、「どうやら相手は自分たちのやり方や考え方とは違うらしい」ということに気づくことです。異文化交流において、自分にとって当たり前だったことが、当たり前でなくなるという意識も大事ですし、また、違う文化・慣習を前にして戸惑うのではなく、積極的に受け入れる姿勢も大切だとわかりました。

第二は「タイという国」です。論文やニュースでしか触れたことのないタイという国でしたが、此度のフィールド調査のおかげで、身近に感じることができました。新聞が語るような政治動乱の影響はないにも等しく、世界各地からの観光客が押し寄せてきて、街や国民達の間には活気が溢れています。また、大都市だけでなく、田舎でもコンビニがちらほらあります。生活の便利さも印象深かったです。

第三は「仲間」です。私も最初は緊張し、なかなか自分の意見を発言できませんでしたが、先生や、同じ参加メンバーの皆さんに支えられ、刺激されながら少しずつ前に出ていけるようになりました。おかげで緊張もほぐれて、真剣に積極的にプログラムに参加することができるようになりました。今回のプログラムをやりきれたのは、先生、参加メンバーの皆さんの存在が非常に大きく、かけがえのない皆との関係も大切にしていきたいと思えます。

特に印象に残ったプログラムは、24日に行われた学生ワークショップです。タイ及び周辺国の優秀な若き研究者たちと触れ合う貴重なチャンスだと思い、当初から楽しみにしていました。実際に、互いに楽しく意見交換ができて、東アジアの現状と課題をより深く理解することができました。最後に連絡先交換なども行いました。これからも交流を続けていきたいと思っています。

今回のプログラムで学んだことを今後の人生にも生かしていきたいと思うと同時に、非常に身の引き締まる思いがして、頑張っていこうという意欲がより増しました。

もともと海外志向が強く、特に発展途上国の発展に貢献したいと考えています。しかし、自分の研究と熱意を、現地の人々が受け入れてくれるのかを心配していました。今回のプログラムを通じて、この悩みを無事解決でき、これからも引き続きグローバルな人材となることをめざし、さまざまな分野において架け橋となり、世界中の人が幸せに暮らし、平等に扱われ、平和に生きていくことに力を添えたいと思っています。